

キャッシュフローベ-

スの経営を實踐してい

ますか？

執筆担当者

孫田 猛

金融機関からの借入

を希望する場合、事前

審査においていくつか

のクリアすべきハード

ルがある。貸す方から

見れば、ここにこれだ

けの金を貸して、ちゃ

んと戻ってくるかとい

う心配が伴う。これは

友人から「ちょっと悪

いんだけど1万円貸し

てよ」と頼まれたとき

でもそう思うのだから、

ましてや多額の融資を

実行する場合は相当な

審査をクリアしてい

なければならぬこと

は当然である。

従来、担保は十分

か？営業利益はでてい

るか？債務超過ではな

いか？等々、今の時代

では、借りられる企業

をさがすのが大変なく

らい、厳しい条件が羅

列され、融資が見送ら

れ、そして消えていく

という運命をたどつて

いつていく企業が後を

絶たない。

こんななか、いわば

過去の通信簿だけを見

て融資の判断を行なう

のではなく、これから

先の事業の行方をしっ

かりと見据えて判断し

ようという動きが出て

きている。いわば「事

業のキャッシュフロー

ベースでのファイナン

ス」である。つまり、

旅館経営そのものから

出るフリーキャッシュ

フローであり、事業自

体が担保という考え方

である。

もともと旅館業の場

合、担保として提供し

ている土地建物は転用

が利きにくく、金融機

関としても積極的な融

資に踏み切りづらい面

がある。だからこそ、

この事業でいくらかか

り、そのうち借入がい

くらで、何年で回収で

きるかという目処がき

ちんと立つかどうか

大きなポイントになっ

てくる。

キャッシュフローベ

ースでの経営計画書を

作成していない旅館は

今すぐ作成をお薦めす

る。

すべて現金ベースで

金の出入りを見ると同

時に、あらかじめ支出

が見込まれる多額の支

払いに対しては、日ご

ろからプールすべき金

額を月次の支出とおな

じレベルで把握するこ

とがポイントである。

うちはそんな余裕は

ないよという声がかこ

えてきそうだが、事業

を展開している以上、

これが一番自社の事情

を如実に物語るもので

あり、現実に目を向け

て真正面から取り組み、

事実や予想される事象

を捉えていくことが大

切である。

もはや忘れたころに

会計事務所から送られ

てくる試算表を眺めて、

すでに過去となつた結

果のみを判断していて

はいけない。キャッシ

ュフローベースでの対

策を打っていく体制を

つくるべきである。